

## 「高南応援団のつどい」アピール(案)

高南廃校の正式決定はまだです。大阪府による 12 月府会提案の高南廃校条例の凍結を求めて全力を尽くしましょう！

1 年前の 8 月 30 日、府教委区委員会は「府立高校再編整備第 1 期実施計画、第 3 年次対象校案」を発表し、高槻南高校を実質的に廃校とする方針を示しました。進路や部活動、国際交流活動など、特筆すべき様々な実績を誇り、府立高校の中で確固たる地位を気づきあげてきたと自負する全ての学校関係者にとって、事前に一切の打診もなく行われたこの発表は、まさに寝耳に水の衝撃でした。私たちが当初、大きな失意と困惑、怒りに包まれたのは言うまでもありませんでした。

この不当きわまりない廃校案に対して、生徒、保護者、現旧教職員がひとつになり、その撤回を求めた反対運動がすぐさま開始されました。この廃校反対運動が、様々な連帯の輪を広げながら、想像を超える高揚を見せたのは今も記憶に新しいところです。

街頭宣伝行動は、3 か月間、ほぼ毎日継続して行われ、地域の各駅頭は、生徒や保護者、関係教職員の廃校反対を訴える声が連日、聞かれるようになりました。数度にわたる集会、デモ行進にも生徒・保護者・教職員を中心に、多くの人々が参加しました。議会請願活動、生徒による府教委への要請活動、府教委に対して説明を求める場の設定など、多彩な反対運動を展開してきました。こうした取り組みの中で、廃校反対署名は、公立高校単体の廃校反対署名としては実に異例なほど多い 16 万筆の賛同を得るほどの大きな発展をみました。こうして高南廃校反対運動は、大阪ではかつて例を見ない大きな教育運動のうねりをつくり上げてきたのです。

あくまで廃校案の撤回と納得のいく説明を求める私たちに対して、府教委は、「これは廃校ではありません。統合による発展です」と、一方的な詭弁(きべん)を繰り返えし、納得のいく説明や合理的な根拠を一切示すことができませんでした。運動の驚異的な広がり懸念と不安を深めた府教委は、府教育委員会議を例年より 2 週間近く早めて開催し昨年 11 月 16 日、ついに高南廃校案を決定したのです。道理ある訴えと高南存続を支持する圧倒的多数の府民の声を全く反映することなく、一切無視したこの決定は、府教委事務局はもとより、府教育委員会議と府教育委員の役割と姿勢に対しても大きな不信と失望をもたらしました。

この不当な決定に対し、あくまで高南の存続と発展をねがう保護者 35 名は、府教育委員会に対して 1 月 10 日、行政不服審査法に基づき「異議申し立て」を行いました。この 35 名の保護者を中心に高南応援団が結成され、高南の存続と発展をめざして廃校反対運動の継続と展開をになうことになりました。その後、2 月 22 日の府教委による「異議申し立て却下の決定通知」を受け、高南応援団は、3 月以降、新たな運動の展開を準備し、4 月 13 日の「第 1 回高南応援団のつどい」を成功させることによって運動発展の新たな契機をつくり上げました。高南応援団は、高槻市当局や市議会各会派への働きかけ、市議会意見書採択の取り組み、府教委への公開質問状の送付と批判活動、府教委の統廃合関連の公文書、28 件の情報公開を求める取り組み、駅頭などでの宣伝行動、高南生徒の「人権救済申し立て」のとりくみや部活動などの支援活動、廃校問題の法的検討、新校の教育についての問題提起など、広範な問題についてとりくんできました。このようなとりくみの中で、志をもって応援団に参加していただいた方は、( )名近くになりま

す。

皮肉にも府教委案の確定以後、高南という学校が廃校対象となるような条件をいっさい持たない学校であるということが、府民の眼にますます明らかになってきています。高南の名を後世に残そうとする生徒たち熱い思いは、様々な分野で発揮されています。今年3月卒業した27期生の進路実績は、過去最高の成果をあげたということです。またこの夏、軟式野球部は、大阪大会での優勝を果たし、全国大会に進出、ベスト8にはいる活躍ぶりで、府民の喝采を浴びました。その中で、全国紙やスポーツ紙で、廃校問題で発言し、頑張る野球部員生徒のことが取り上げられています。これらは、廃校決定にもかかわらず、高南生徒のエネルギーに示される高南の生命力がいぜんとして健在であることを証明しています。

高南の伝統は30年前、市民と高槻市当局の協力によって開校されて以来、地域の人々に支えられながら、脈々と築き上げてきたものです。私たちは、この素晴らしい高南を、一部の役人と政治家だけの密室合意によって廃校にしてしまうという決定に対して、今なお大きな怒りをもつものです。廃校反対に立つべき一部の教育関係者が、これを容認していることにも深い悲しみと怒りを覚えます。私たちは、この悲しみや怒りを、廃校条例案の凍結と見直しの運動に大きく転化させたいと決意してこの「つどい」に参加しました。

高南の廃校決定は、あくまで教育行政レベルの決定であり、条例改正や予算を伴うものですから最終決定には大阪府議会の決定が必要です。12月府議会に「高南廃校条例案」が提案される見込みです。条例提案まで、あと3ヶ月です。きわめて切迫した事態の中で私たちは、この「つどい」を開催しています。向こう3ヶ月間、高槻市民のみなさん、広く大阪府民のみなさんのご理解とご協力をえて、以下のとりくみを大きく発展させたいと思います。

- 一、 私たちの願いは、高南の存続と発展であり、高南における教育諸活動と学校生活が充実したものになることです。生徒や教職員の要求とねがいを生かすとりくみへの支援と協力をいっそう強めましょう。
- 二、 12月府議会への高南廃校条例案の凍結と見直しを求めるとりくみを発展させるために、府議会への請願、府議会議員と各会派への要請活動、高槻市当局や市議会各会派への働きかけをいっそう強めましょう。世論喚起の取り組みも、大きな視野で取り組みましょう。
- 三、 大阪府教委がもっている廃校関連の公文書の情報公開を更にいっそう求め、決定過程の不透明さ、決定根拠の不合理性をいっそう明らかにします。また、府有財産処分の財政合理性を検討吟味し、税金の無駄遣いなどを、市民オンブズマン活動との交流の中で追及します。
- 四、 今回、明らかになった「高槻地域新校説明資料」(高南、島上の管理職が関与したもの)に見られるように、これまでの府教委の説明に反して、新校は「両校とは全く別の学校である」として、高南や島上高校の伝統や教育を継承しないことをセールス・ポイントにしようとしています。偏差値教育を最重視し、管理主義や押しつけの教育を「どこの学校にもない厳しい指導」で進めるとしています。私たちは今後、このような教育内容や学校づくりに対する批判・抗議活動をすすめます。
- 五、 このような教育運動を大きく発展させるために、高南応援団への加入を全ての皆さんに訴えます。まだ加入されていない方は、今すぐ加入してください。

以上のとりくみ発展のために、本日の「つどい」に参加された一人一人が、全力を尽くすことをここに誓い合いましょ。提案は以上です。アピール採択へのご賛同をお願いします。

2002年8月30日